

平成30年度 租税教育実践事例（第6学年社会科）

登米市立登米小学校
教諭 後藤 歩

- 1 単元名 わたしたちの生活と政治
小単元名 震災復興の願いを実現する政治

2 単元のねらい

本単元は、地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、我が国の政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。

地方公共団体や国の政治の働きに関する社会的事象から学習問題をつかみ、聞き取り調査をしたり、各種資料を活用したりして調べたことをまとめるとともに、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、適切に表現する。

（2）児童の実態（男9名、女13名、計22名）

本単元の学習を指導するに当たり実態調査を行ったところ、全員が「税金」という言葉を知っていた。その中でも、「消費税」について、10%に増税されることにも関心をもっていた。また、教科書の巻末に「税金によって無償で提供されている」という文章があることに気付いている児童も複数いた。

また、「税金の種類」については「消費税」を除くと「自動車税」や「市民税」などの言葉を知っている児童は若干名いるが、その使い道や他の種類の税に関してはほとんど分からないようである。同時に「税金は大人が払うもの」だと感じている児童も多い。そのことから、自分自身も納税者であることについても理解を深めさせたい。

（3）指導の着眼

児童の実態調査の結果を受け、以下の点を指導の手だてとして設定した。

- ① 税務署からゲストティチャーを招き、専門的な立場から説明してもらうことによって、児童の興味・関心を高めながら学習を進められるようにする。
- ② 国民の義務として、納税の義務があるということを学び、税の必要性を押さえる。

以上のような手だてを用いることによって、児童一人一人に「税金」について理解させ、「税金」の必要性についても考えさせていきたい。

3 活動計画

段階	題材名	時	おもな学習活動	評価規準	備考
つかむ	東日本大震災の発生	1	「大震災直後の気仙沼の様子」や号外を見て、気付いたことや考えたことを発表し合う。	〈関意態〉 被害の大きさやまちの人々の願いについて関心をもち、願いを実現する政治の働きを意欲的に調べようとしている。	震災直後の写真や新聞記事を見せ、東日本大震災による被害の大きさについて考えさせる。
調べる	東日本大震災への緊急対応	1	地震直後の市、県、国の取組について調べる。	〈思判表〉 災害が発生した時に国民生活を守るように、地方公共団体や国は日頃から協力して、準備していることを考え、適切に表現している。	
	災害復旧に向けた国の支援	1	災害復旧、復興に向けた国の取組を調べる。	〈技能〉 国の災害復旧に向けた取組について調べたことを年表などにまとめている。	
	【本時】 私たちの暮らしと税金	1	税金がわたしたちの生活に密接に関係していることを知り、働きや必要性についての話を聞く。	〈知理〉 法人会の方の話を聞き、税金の働きや必要性や重要性について理解している。	法人会の方をゲストティーチャーに招き、税金の使われ方を理解させる。
	復興を願う市や市民の取組	1	市や市民の取組について調べる。	〈知理〉 災害復興への取組は、地方公共団体や国の政治の働きによるものであることを理解している。	地域住民の話から、震災から立ち上がり、復興に向かう人々の姿をとらえさせる。
	さまざまな支援と絆	1	復旧や復興に向けた、様々な人の取組について調べる。	〈技能〉 災害復旧・復興に向けた様々な支援について、必要な情報を集めて読み取っている。	防災教育副読本を活用し、復旧・復興に向けて様々な取組をつかませる。
まとめる	まとめる	1	調べてきたことを項目ごとに整理して、新聞記事を書く。	〈思・判・表〉 これまで調べたことを関連付けたり、総合したりして、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え、表現している。	

4 本時の学習

(1) 指導について

- 税金がわたしたちの生活に密接に関係していることを知り、働きや必要性についての話を聞く。

段階	主 な 学 習 活 動 ・子どもの反応	学習の様子
つかむ 5分	1 本時の課題を知る。 税金の働きや必要性について考えよう。 税金の働きや必要性について知り、自分たちの生活との関係について学ぶことを知らせる。 2 ゲストティーチャーの紹介をする。	
学び 合 う 20分	3 講師の方の話を聞き、税金について考える。 ○知っている税金の種類を発表する。 ・消費税、自動車税・・・など ○1億円のレプリカを持ち、量や重さを実感する。 ・すごく重たい。 ・10kgもあるなんてびっくり。 ○税収が58兆円であることを知る。 ○税金が使われているものとそうでない施設に分類する。 ・お店にも税金が使われているんじゃないかな。 ・小学校には税金が使われているよ。 ○学校で税金が使われなかったならば1ヶ月に約7万円の費用がかかることを知る。	【1億円の重さを実感した】  【税金の使われ方を分類】 
確かめ る 20分	4 DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴し、税金の必要性を知る。 ・安心して生活できない。 ・火事や交番の利用も有料になってしまう。 5 国民の三大義務について知る。 ○納税はみんなが力を合わせて支払う会費のようなものである。 ○みんなが安心して豊かな暮らしができるようにするために税金がある。	【DVD を視聴し、税金の必要性を考えた】 

(3) 評価

- 「税金」の使われ方について知ることができたか。
- 「税金」が必要なわけを考えることができたか。

6 指導を振り返って

- 登米法人会の方をゲストティーチャーとして、「税金」について説明してもらったことにより、「税金」について興味を持たせることができた。
- 理解啓発ビデオ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」は身近な出来事を題材として取り上げているため、とても分かりやすく、児童は「税金」の必要性を実感することができた。
- もしも税金がなかったならば、学校生活だけではなく、日常生活にも大きな影響が及ぶことを知り、税金の必要性や重要性について理解を深めることができた。

【税に関する絵はがきコンクール応募作品】 (一部)

